

常任委員会行政視察報告

総務企画委員会

◆視察月日 4月24日～26日

◆視察市 鳥取県倉吉市
鳥取県鳥取市

◆視察項目

- 行政財運管について
- 景観形成について
- 街並みづくり
- (街並み整備)について
- 総合計画について(地域づくり含む)
- 視察の概要

◆財政健全化と街並み整備事業

平成17年に1市1町で合併した倉吉市は、合併協議に基づく新市建設計画の実施や学校改革事業などの財政負担に危機感を持ち、財政健全化計画を策定した。次代を担う子供たちへ豊かで明るい倉吉市を引き継ぐため、聖域を設けず思い切った改革を行うもので、行財政推進課を設け歳出縮減、歳入確保に数値目標を掲げるとともに、実質公債費比率の改善のため公債費負担適正化計画を作成し、市民へわかりやすく公表している。

また、歴史的資源を活用した街並み整備事業を推進している。事業はカラー舗装、モニュメント、防災センター、歴史的建造物活用事業のほかアーケード撤去がある。アーケードが危険になり商店街と協議した後、市長

は国交省へかけ合い交付金を受けることになった。まちづくり交付金4割、市4割、地元2割の事業費で解体と商店の店構えの修景(周囲と調和した景観の整備)を進めている。本市課題の手掛かりとなる事例であった。



倉吉市庁舎前にて

鳥取市総合計画

合併直後に財政見直しをして「あれもこれもできない」状況から、新市建設計画事業をすべて総合計画に反映させるのではなく、選択の5つの基準(緊急性、地域の実状、効果、熟度、有利な財源の確保)で精査し事業を選択した結果、総合計画へ76%を盛り込み、残りは次期へ回した。合併初年度は新市建設計画をもとに170億円の事業費の予定が財政見直しにより、40%減額したとのこと。見送られた事業に対する「約束が違う」「学校建設を早く」の声には、5つの基準を説明し理解してもらっている。総合計画概要

版では市長の公約(企業誘致を4年間で8社以上を目指すなど具体的に)や戦略的に取り組むビジョンを示し計画を着実に推進するべく市民と協働で積極的に取り組んでおり、本市総合計画策定に当たり参考にすべき事例であった。(安岡)

文教民生委員会

◆視察月日 5月23日～25日

◆視察市 和歌山県海南市
和歌山県田辺市

◆視察項目

- 海南ビデオボックスについて
- 子育て支援施策について
- 精神障害者の社会復帰施設について
- 視察の概要

海南市ビデオボックス

国のインターネット基盤施設整備事業の市民向けサービスの一環として導入、行政情報提供サービスや生涯学習情報提供システム等の導入で、ネットを介し映像を活用した情報提供を行うことにより市民サービスの向上を図ることが目的。現在は庁内の研修内容を映像化し、参加できなかった職員にも研修内容の周知を行ったり、港に設置されている災害防炎カメラに映る水位などをリアルタイムで提供し、釣り人なども利用しているとのことであった。今後さらに地場産業やイベント、文化財の紹介などのコンテンツを作成し、ホームページで随時掲載できるようにしていくとのことであった。

精神障害者の社会復帰施設

田辺市の社会福祉法人「やおき福祉会」の精神障害者の通所授産施設「やおき工房」を訪問。精神障害者にかかわる人たち(保健所、作業所、家族会、病院)が集まり、社会の中に精神障害者が受け入れられる基盤づくりを目指してさまざまな活動を続けている。現在ではグループホーム4カ所、小規模作業所1カ所、就労支援センター1施設、生活訓練施設1施設、小規模通所授産施設3施設、教育施設2施設、地域生活支援センター等があり、他県の模範として注目されるまでになっていた。この間、社会福祉施設等の整備助成などの市単独助成事業も行っている。ファミリーサポートセンター事業は、平成14年から実施しているが、これまで事故等など特に問題はないとのことであった。ただ、合併した旧町村地域でサポートしてくれる人が少ないのが課題とのことであった。当市での事業実施の参考となった。(菊地)



田辺市役所での研修風景